

7月19日(月)、終業式の前に全国大会に出場する部活動の壮行式が行われました。出場するのは、ソフトテニス(個人)、器械体操、バトン、ダンス(中学)、将棋の5つです。すべて女子だけと少し寂しい気もします。男子の奮起を待ちたいところです。

さて、昨夏の夏休みは学校休業などの理由で9日間だけでしたが、今夏は何とか「新しい日常生活」の中で例年の期間となりました。熱さに気をつけながら、また、コロナ対策をとって充実した夏休みにして欲しいと願っています。



## 「思いこみを捨て、思いつきを拾う」

先日、私が好きなお笑いコンビのサンドウィッチマンが司会をする「サンドのお風呂いただきます」(NHK)でこの言葉に出会いました。これは、ゲストの歌手・小林幸子さんが語っていた言葉ですが、正確には小林さんのご主人が小林さんに伝えた言葉として紹介されたものでした。長年にわたってヒット曲を連発し、年末の紅白歌合戦の常連だった小林さんが行き詰まった状態となり、活動が停滞してしまったときにご主人が言われたのだそうです。こだわりを捨て、殻を破って見たらどうか。違う自分の姿を描き、これなら「いけるかも」と思ったことに賭けて見たらどうか。その後、小林幸子さんの“芸風”に変化が見られ、歌手として新たな地平を拓けた、とのことでした。

すごく合点がいきました。そこで、「思いこみを捨て、思いつきを拾う」の言葉を学校の日常生活の様子や私自身の想いや考え方にも照らし合わせてみました。一つのことにと拘泥し、身動きできなくなっていないか。周囲を見ながら、正に求められていることに応じて整った動きになっているか。発想の転換や角度を変えた視点をもって工夫を凝らしているかなど。

夏休みに入る前、数人の高校3年生と今後の進路について話す機会がありました。私立大学か国公立大学か、大学か専門学校か、県内か県外かななどの悩みを抱えているようでした。相談を受けるとき、絶対こうだからという頭ごなしの話はできません。想いを聞いたり、理由を聞いたりしながら本人の目指す進路を確かめていきます。その中で、「〇〇大学が向いていると思っています」とか「私の言うことを親は反対するんです」という弁に出くわします。だから相談に来るのだと思いますが、多面的に情報を収集していない、研究不足から招く弁だろうと思われまます。あれは調べたか、このことは知っているかに始まり、「未確定かもしれないが、将来何を目指そうとしているか、う

っすらでもいいから描いているか」と問うと、曖昧な返答があるばかり。突き詰めていないこと、何よりも思いこみが壁となって、次へ進めない状態にあるのです。情報を得ようとする心構えを持ち、思いつき(気づき)を大切にできるかどうかが鍵になるのでしょう。

受験生と同様に、学校業務の中で選択や判断をせざるを得ない場面が日々必ず訪れます。あるいは、コロナ禍にあって柔軟な対応に迫られたとき、適した打開策を講じなくてはならない局面があります。まずは定められたルールに則って対処することが優先順位です。しかし、とくに生徒に関する指導や対応においてルールだけでは対処し難い場面に遭遇することは往々にしてあります。このとき、思いこみが妨害になるのは当然至極のことです。「これまではこうしてるから…」では通用しません。最適な選択や判断、打開策を講じるためには必要な情報を的確に捉え、関係する教職員とで意見を交換することによって決定を図らなくてはならないのです。そのためには、平生のコミュニケーションに加え、それぞれの“謙虚な姿勢”がいるのでしょう。「思いこみを捨て、思いつきを拾う」ためには。

### ちよっといひ話

本校のある保護者から、自転車通学生の通学マナーについて感心している、というお褒めの言葉をいただきました。

具体的には、新井口駅の隣の踏切の辺りのことなそうです。「毎朝のように自転車通学生が多く通る道ですが、踏切を待つ際にびしっと一列になって待っている様子が素晴らしい」。また、「急いでいるので本当は前に出たいが、協創生がきちんと並んでいるので、思わず後ろに並んでしまうんです」とも。先生たちの目の届きにくい場所での行いなので、何かの形で是非とも紹介してくださいとのことでした。ありがとうございます。